

# 鉛温泉 白猿の湯

Namari Onsen Shirozarunoyu  
(岩手県花巻市)



今回紹介するのは鉛温泉の藤三（ふじさん）旅館にある白猿（しろざる）の湯。鉛温泉とは、少々毒々しい名称である。藤三旅館によれば、江戸時代にこのあたりで金が見つかったが、それを江戸幕府に報告するのは都合が悪いので、「鉛が出た」と報告したため、このあたり一帯が鉛という地名になったことに由来している。別に温泉に鉛が含まれているわけではないようである。また、「藤三」は、この旅館の主人が藤井三郎だったことに由来していると旅館のスタッフから聞いた。さらに、「白猿」は、約600年前に、白猿がこの温泉で傷を癒していたところを発見したのがこの温泉の始まりだったことに由来しているという。

さて、鉛温泉には藤三旅館と湯治部の2つがあり、旅館側には白糸の湯と銀の湯、湯治部側には白猿の湯と桂の湯という具合に、それぞれ2種類の温泉を有している。今回紹介するのは、その中でも極めつけの温泉、白猿の湯だ。

白猿の湯は内湯のみであり、基本的に混浴である。それ自体は普通である。ではなぜ極めつけなのか。それは、湯船の水深にある。水深はなんと125cm。すなわち、立って入らなければ

ならない湯船なのである。

白猿の湯の入口は2つある。それぞれ男性用、女性用なのかと思ったら、特に決まっていないという。ということは、男性と女性は同じ場所で衣服を着脱することになる。混浴が苦にならない人でも、さすがにこれは難しいのではないか。したがって、混浴とは名ばかりで、入っているのは男性ばかりだ。このため、女性専用の時間帯が別途設けられている。男性も女性も、白猿の湯に入浴する際は、宿のスタッフに時間帯をよく確認しておこう。

入口を入ると急な階段があり、下方に浴室の全貌が見える。2か所の隅に脱衣場所があり、中央に小判型の湯船がある。別の隅には丸型の小さな湯船も見える。洗い場は4か所あるが、使っている人はいない。混合栓があるわけではなく、どんな温度の水が出てくるのかも不明である。この温泉に来たら、体を石鹸で洗うことはあきらめるべきであろう。とにかく、水深125cmの湯船をじっくりと楽しみ、体が

ほてったら、その周囲で体を冷やすのである。

中央の湯船の湯温はやや熱めだ。木製の桶が 2 個置いてあるので、体をよく慣らしてから湯船に入ろう。水深は本当に深い。慎重に入っても、落ちるようにして湯船に引きずり込まれる。子供は要注意である。見上げるとこの浴室は吹抜になっていることがわかる。床から湯気抜きまでの高低差は約 10m だ。上部の壁には入浴の作法や効能が書いてあるが、頭がボーとしてくるので、読む気にもならない。ぼんやりと湯気抜きを眺めながら、時間がゆっくりと過ぎていくのを楽しめばよいのである。尚、小さい方の湯船の湯温はぬるめだ。但し、定員は 1 人である。恐らく子供用なのであろう。

ちなみに、白猿の湯は単純温泉（アルカリ性単純高温泉）で、神経痛、リウマチ、胃腸病、筋肉痛、関節痛、皮膚病、神経性疾患、婦人病、糖尿病、肥満、痔疾、小児疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、病後保養等に効くという。

白猿の湯で、湯船に立ったまま入るといふ貴重な入浴体験ができた。来た甲斐はあった。東北の湯治場、恐るべしである。

DATA

名称	鉛温泉 白猿の湯
所在地	岩手県花巻市鉛字中平 75-1
電話	0198-25-2901（湯治部）、0198-25-2311（藤三旅館）
営業時間	要確認
定休日	無休
入浴料	宿泊者は無料
サウナ	なし（白猿の湯）
サウナ内のテレビ	なし（白猿の湯）
取材日	2017 年 4 月某日
取材	銭湯愛好会東京支部